

## 「神戸電鉄栗生線 地域公共交通総合連携計画」の次期計画について（骨子案）

### ■ 基本理念および基本方針等

#### ▽ 基本理念：**地域が支え、地域を支える栗生線の維持存続と活性化の実現**

栗生線は、沿線地域における重要な移動手段（交通手段）であるとともに、人や地域間・文化の交流、地域の活性化など、沿線地域にとって重要な役割を担っている。

また、少子高齢化が進行するなか、誰もが気軽に快適に活動できる“豊かなまち”を実現するため、栗生線等の公共交通を中心としたまちづくりが求められている。このことから、地域や自治体、神戸電鉄等の各関係者が主体となって、栗生線活性化に向けて取り組んでいくことが不可欠である。

平成24年度からは、神戸電鉄栗生線の維持・存続に向けて、神戸電鉄による一層の自助努力を前提に県及び沿線3市による新たな支援がスタートした。しかしながら、民間企業単独では栗生線の維持・存続が困難な、極めて厳しい収支状況であることに何ら変わりはなく、維持・存続のためには、地域の相応の支援・協力が必要であり、何よりも利用実績の増加が欠かせない。今まで以上に利用を増やしていくためには、**地域による主体的な取組み・参画が極めて重要となっている。**

#### ▽ 基本方針：方針1：他の交通機関に対する競争力の向上

方針2：駅勢圏（駅の集客範囲）の拡大

方針3：定期利用者と交流人口の拡大

方針4：公共交通優先利用行動の喚起

方針5：安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

方針6：沿線住民との協働と**沿線住民の主体的な取組み・参画**

#### ▽ 事業・具体的な取組みの方向性：

現・連携計画の評価にもとづいて継続する事業・具体的な取組みについては、沿線地域や関係自治体、神戸電鉄が連携して引き続き推進。

そのうえで、以下の（1）および（2）の方向性について重点的に注力。

##### （1）通勤定期利用者の減少傾向に歯止め

① 沿線企業に対する継続的な利用啓発の推進

② エコ通勤推奨に対する協議会補助の検討 etc.

##### （2）更なる定期外利用者増の推進

① 沿線地域が主体的に行う利用促進

② 沿線地域が行う利用促進活動等への協議会補助の検討

③ 沿線市等が主体となって行う利用促進 etc.

■ 計画目標および計画期間

▽ 計画目標：計画期間中は700万人台を確保

▽ 計画期間：2013年度～2016年度（平成25年度～28年度）の4か年

【参考資料】 現・連携計画（平成22～24年度＜2010～2012年度＞）の事業・具体的な取組みの  
実施状況

◇ 別紙資料参照

以 上